NO.5

■崇福寺

織田信長が斎藤龍興を亡ぼし永禄10年(1567)美濃に移り、崇福寺を菩提所とし、保護しました。その後本能寺の変で討たれた信長父子の遺品を埋め位牌を安置させた「織田信長父子菊」があります。本堂には「血天井」があり、これは関ヶ原の戦いで戦死した、将兵の菩提を弔うため、岐阜城の床板を本堂の天井に張ったものです。

■織田信長公追悼式(毎年10月第1土曜日)

■岐阜善光寺

数え年で7年に一度、御本尊のお姿を拝むことができる御開帳は、信州善光寺と時を同じくして次回は2021年。金華山西側の麓にあり岐阜伊奈波の善光寺として宗派を超えて親しまれています。

NO.6

NO.7

NO.8

NO.9

NO.10

NO.15

■加納天満宮

天神さまの愛称で地元の人達に親しまれている岐阜駅より2駅も近く歩いて行ける神社。学問の神様である菅原道真公を主祭神として祀っており、学業上達、受験合格祈願に訪れる参拝客があとをたちません。また、御守りや絵馬、合格祈願はち巻き等種類も豊富で大人気です。

■岐阜公園

金華山の麓にあり、市民や観光客に憩の場として親しまれている公園です。織田信長公居館跡、和風庭園「信長の庭」、岐阜市歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館、名和昆虫博物館などが点在しています。金華山山頂への登山道登り口やロープウェー乗り場もあります。

■岐阜城

金華山山頂に位置する岐阜城。鎌倉時代に二階堂行政が初めて砦を築いたといわれ、戦国時代には斎藤道三公が入城。岩山にそびえる"難攻不落の城"として知られました。永禄10(1567)年9月、城を手に入れた織田信長公は、地名を「井口」から「岐阜」、城の名を「稲葉山城」から「岐阜城」に改称したとされています。そして、安土城を建設するまでの約10年間、この地を拠点として天下統一を目指しました。現在の岐阜城は昭和31(1956)年7月に復興されたもの。城内は史料展示室、楼上は展望台となっています。また、金華山一帯は平成23(2011)年に「岐阜城跡」として国史跡に指定されています。

■金華山

市の中心部にあり、標高は329m。自然林やシダ類の群生が茂り、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロなど60種類以上の鳥も生息しています。

■金華山ロープウェー

岐阜公園と金華山の山頂を3分で結ぶロープウェー。四季の自然美と眼下の長良川の景観が楽しめます。山頂にはリス村もあり、そこから徒歩8分ほどで岐阜城へ行けます。

■常在寺

斎藤道三ゆかりの寺。道三の国盗りの拠点で、斎藤氏の菩提寺。道三、義龍の遺像が残されており、ともに国指定の重要文化財です。

■名和昆虫博物館

岐阜公園内にある我が国有数の昆虫博物館。春の女神ギフチョウをはじめ、昆虫の種類は約1万2,000種、標本も30余万を有しています。レトロな建物も素敵です。

■岐阜市科学館

子ども も大人も楽しめる岐阜県内唯一の総合科学館。プラネタリウムや天文台、動く展示や参加体験のできる展示を主体とし、自由に 見て聞いてためして、体験を通して学べる知的レジャー施設です。

■岐阜市歴史博物館

原始から現代までの岐阜市の文化と歴史を、さまざまな体験を通じて知ることができる博物館。織田信長公に焦点をあてた展示や特別展は必見です。

■加藤栄三・東一記念美術館

岐阜公園にある、土蔵風の落ち着いたたたずまいの美術館。岐阜市出身の著名画家兄弟、加藤栄三・東一両氏の作品を収蔵・公開しています。

■伊奈波神社

1900年余りの長きに亘り、岐阜の護り神・「心のふるさと」として親しまれており、春は桜、秋は紅葉が彩り緑豊かな中に佇んでいます。正月には3ヶ日で70万人もの多くの参拝者で賑わい、岐阜まつり(4月第1土曜日)には、大勢の人々が見守る中、行列を組み岐阜の町々を渡御します。安産祈願・初宮詣・家内安全・商売繁盛・車祓・厄除開運など諸願成就。

■大龍寺(だるま観音)

市内北端にある、だるま観音として親しまれている禅宗のお寺。1月中旬の日曜日に催されるだるま供養は岐阜の年始行事として有名です。夏には灯籠まつり、そして秋には裏山や庭・裏庭を真っ赤に染めるどうだんつつじの紅葉スポットとしても人気です。

■岩戸弘法弘峰寺

金華山のふもとに位置し、奥行16mの岩窟の中に本堂がある高野山真言宗のお寺。健康祈願で素焼きの皿を頭に乗せて頭頂のつぼに灸を据える焙灸灸を一年通しておこなっており、お灸や脱法を楽しみに多くの方にご参拝いただいております。

■長良川うかいミュージアム

鵜飼をテーマにした日本初のミュージアム。絵巻物型スクリーンで上映されるガイダンスシアターや参加体験型の展示で、長良川鵜飼について紹介しています。乗船前に訪れれば、実際の鵜飼がより一層楽しめるはずです。また、オフシーズンでも鵜飼の魅力が体感できます!

■ぎふ長良川の鵜飼

鵜飼は鵜匠が鵜を操って魚を捕まえる伝統漁法で、「長良川の鵜飼漁の技術」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。長良川の鵜飼は織田信長公など時の権力者に保護され、1300年以上も続いてきました。また、多くの文化人にも愛され、松尾芭蕉は「おもしろうて やがてかなしき 鵜舟かな」と句を詠み、名優チャールズ・チャップリンは2度も見物に訪れています。漆黒の闇の中、篝火を川面に映し、伝統装束に身を包んだ鵜匠が「ほうほう」と声をかけ、鵜を操って魚を追う様子は、見る人を幽玄の世界へと誘います。

■清流長良川の鮎 世界農業遺産

平成27年12月、「清流長良川の鮎」が世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。流域に約86万人の人口を抱える長良川は、人々の暮らしの中で清流が保たれてきました。そこには鮎も生息し、清流と鮎は地域の経済や歴史、食、文化と深く結びついています。こうした人の生活、水環境、漁業資源が密接に連携する里川のシステムを「長良川システム」と捉え、後世へ受け継ごうと維持・保全が図られています。

■長良川

市内中心部を流れる川でありながら、今もきれいな水をたたえ、その流れは多くの人に愛されています。夏になれば、川原は水遊びを楽しむ人でにぎわいます。長良川は源流を郡上市高鷲の大日ヶ岳に発し、多くの支流と合流し大垣三川のつどいとして、伊勢湾に流れ込みます。長良川中流域の水は「名水100選」に選ばれており、今もなお昔ながらの伝統を守りつづけているぎふ長良川の鵜飼が行われる場所でもあります。

■岐阜大仏(正法寺)

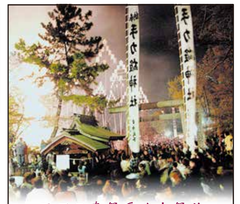
日本一の乾漆大仏がある正法寺は岐阜公園の近くにあります。かご職工に漆、金箔で仕上げた大仏は高さ約13.7m。

■梅林公園

梅の名所として知られる公園で、毎年1月中旬から早咲きの梅が咲き始め3月上旬から見頃を迎え、3月下旬まで様々な梅の花が楽しめます。また、3月上旬には梅まつりが開催され多くの人で賑わいます。

■長良天神神社

岐阜の清流「長良川」の北に位置する学問と文化の神様、菅原道真公を守護神として祀る5000坪の敷地を有する神社。2～3月は紅白の梅、4月には桜並れ松に四季桜、12月は紅葉と四季折々の木々が、ご覧いただけます。緑の杜の静寂が邪を払い、心を清らかにしてくれます。



NO.11

NO.12

■長良川温泉

清流長良川と緑豊かな金華山の壮大な景色を眺めながら、「長良川温泉」でゆったりと身もこも癒されてみませんか。お湯は赤褐色のにごり湯で、神経痛、関節痛、疲労回復などに効果があるといわれ、観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」に8年連続で選ばれています。日帰り入浴が楽しめる宿があるほか、無料の手湯や足湯もあります。

NO.13

■大智寺(モミジとシイタケ)

モミジの季節には、原木栽培のシイタケが旬を迎えます。神聖な山の水と空気で育った肉厚なシイタケです。天候により収穫量は左右されますが、お鍋に天ぷらに最適です。

■川原町の古い町並み

長良橋南詰の鵜飼観覧船のりばから西へ続く「湊町・玉井町・元浜町」の町並みは、通称「川原町」といい、格子戸のある古い町並みが今も残っています。狭い間口に長い奥行きという昔ながらの日本家屋が軒を連ねるこの辺りは、昔、長良川の水運を利用した川港として栄え、多くの商店で賑わっていました。現在でも、伝統工芸品「岐阜うちわ」を製造販売しているお店や、岐阜銘菓「鮎菓子」で知られる和菓子店などが、レトロな雰囲気を残したまま営業しています。

■妙照寺

金華山の麓にある妙照寺の開創は、天文3年(1534)で、旧今泉村に創建。慶長5年(1600)、竹中半兵衛屋敷跡(現在地)を織田秀信公より寄進され移転。境内奥の「三光稲荷社」は、竹中家が守護神として祀り信仰した伝えられています。貞享5年(1688)に芭蕉が約1ヶ月滞在したという座敷が現存しており、境内には句碑があります。本堂・庫裡は岐阜市重要文化財に指定されています。

■三甲美術館

閑静な住宅街の中に建つ美術館。館内にはルノワールの絵画を筆頭に和洋を問わないコレクションを展示。また、館内からは金華山・岐阜城が一望でき、四季折々の風情を感じることができます。落ち着いた空間の中、ゆったりとした時間を過ごしたい方におすすめ。

NO.14

広告掲載のお問い合せ・お申し込みは 英公社株式会社 790-0831 愛媛県松山市山田町1386-5 TEL 089-977-9333 FAX 089-977-9345 http://wowmap.jp ◆2020年4月1日調整 KI:2252 2020.04

◆この地図は英公社株式会社(阪権所有)発行の最も新しい地図を掲載したものです。
いかなる形式においても、著作権者に無断で、この地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。